

さらなる深掘りのための1冊



『電力自由化——発送電分離から始まる日本の再生』 高橋 洋 / 日本経済新聞出版社 / 1680円

必読! 読んでおくべき1冊



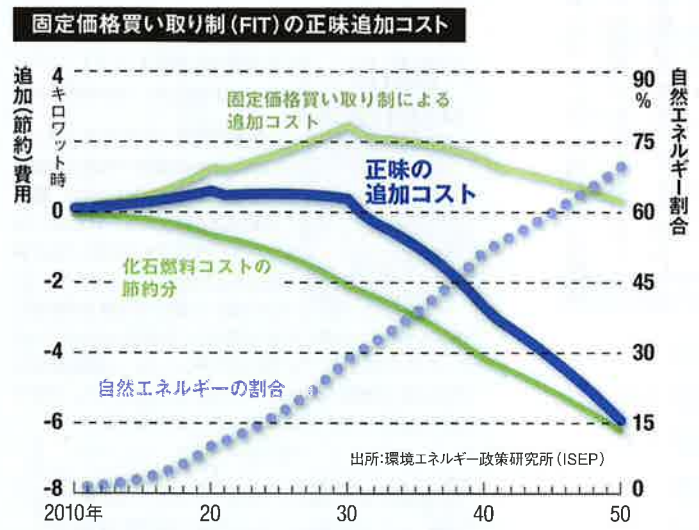
『マンガでわかるエネルギーのしくみ』 飯田哲也監修、二尋嶋彦マンガ、サイドランチマンガ / 池田書店 / 1575円

代替エネルギーは高コストで普及しない?

中長期的な投資としては十分にリーズナブル

東日本大震災が起る直前 2011年3月11日午前に関議決定され、紆余曲折を経て8月26日に成立した「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法案(再生可能エネルギー特別措置法)」が、2012年7月1日から施行されます。

い取り制では、電力会社が自然エネルギー電力を高い価格で買い取って、そのコストを消費者の電気料金から徴収することができます。



FIT導入に伴う日本の「正味の」エネルギーコスト増 (ISEP試算)。「FITによる追加コスト-化石燃料の節約分=正味の追加コスト(電力価格の実質的な値上がり幅)」。



自然エネルギーの普及の意味をどのように捉えるかによって変わってきます。現在、私たちのエネルギー供給の大部分を占める石炭・石油などの化石燃料は、安い資源ではあるものの、新興国がエネルギー消費を増やしていく傾向を考えれば、中長期的には価格が上昇に向かっていくことは容易に想像できます。

せん(ただし、自然エネルギー利用にも様々なリスクは伴います)。こうした見方を踏まえれば、自然エネルギーの普及には私たちのエネルギーの安全保障という意味があり、そのための月額数百円の電気料金の値上がりはリーズナブルと言っているのではないのでしょうか。

Portrait of Shota Furuya and his bio: 古屋 将太 Shota Furuya, NPO法人(特定非営利活動法人)環境エネルギー政策研究所 研究員.



写真:アフロ